

（２）政策的医療に関する評価チェックシート

評価の定義
○ 期待どおり又は期待以上
△ 事業の実施に問題はないが一部に改善の余地有り
× 事業の実施に支障有り。或いは法令違反有り。

評価項目	事業計画書の内容	評価対象事項	令和3年度の実績	自己評価	自己評価分析	市評価	評価所見																																																																																																											
①救急医療	令和元年度の年間救急搬送件数は、1,110件（月平均92.5件）であり、令和2年度の月平均108.6件（R2.4～R3.2）となり、前年対比117.4%に増加いたしました。年度初めは新型コロナウイルス感染症による受診抑制等の影響もありましたが、整形外科の常勤医師の着任に伴い、外傷性疾患の受入体制が強化されたことにより、救急搬送件数が増加したものと考えられます。また、救急搬送患者のうち、入院加療が必要な患者は、約37%であり、地域の二次救急医療機関としての役割を担っております。ただし、救急搬送以外の時間外・休日受診においては、令和元年度の件数は、2,095件（月平均174.6件）であり、令和2年度の月平均129.5件（R2.4～R3.2）となり、前年対比74.2%に減少いたしました。要因と考えられるのは、新型コロナウイルス感染症の流行による受診抑制ならびにそれに伴う感染予防によりインフルエンザ等の受診者が減少したものと考えれます。 令和3年度においても、あま市唯一の二次救急病院として、救急医療の提供に取り組むため、引き続き新型コロナウイルス感染症における感染対策を講じながら、近隣の消防署等と連携を深めていきます。また、脳出血や心筋梗塞等の緊急に人命に関わる疾患等は、名古屋第一赤十字病院等の高次の医療機関へ適正に搬送するほか、診療所、施設等からの救急患者の受入えを積極的にを行い、地域の中核病院として役割を担っていきます。 <table><tr><td></td><td>目標値</td></tr><tr><td>救急患者数</td><td>3,000人</td></tr><tr><td>救急搬送数</td><td>1,200件</td></tr></table>		目標値	救急患者数	3,000人	救急搬送数	1,200件	・救急患者数 ・救急搬送件数	令和2年度の年間救急搬送件数は、1,348件（月平均112.2件）であり、令和3年度は、2,130件（月平均177.5件）となり、前年対比158.0%に増加いたしました。コロナによる病棟受け入れ制限等の影響もありましたが、整形外科、泌尿器科、婦人科の常勤医師の着任に伴い、手術を必要とする患者の受け入れ体制が強化されたことにより、救急搬送件数が増加したものと考えられます。また、救急搬送患者のうち、入院加療が必要な患者は、約34%であり、地域の二次救急医療機関としての役割を果たしていると考えます。 ただし、救急搬送以外の時間外・休日受診においては、令和3年度は、1,702件（月平均141.8件）であり、令和2年度に引き続き、コロナによる受診抑制ならびに感染予防によるインフルエンザ等の受診者減が要因となっていると考えられます。 令和4年度においてもコロナへの対応を行いつつ、あま市唯一の救急告示病院として、救急医療の提供に取り組んでまいります。 令和3年8月より海部東部消防組合と救急ワークステーション病院実習にも取り組み、さらなる救急医療の充実に努めてまいります。 <table><tr><td></td><td>実績値</td></tr><tr><td>救急患者数</td><td>3,832人</td></tr><tr><td>救急搬送数</td><td>2,130件</td></tr></table>		実績値	救急患者数	3,832人	救急搬送数	2,130件	○	救急医療においては、総合診療科を中心に幅広い疾患への対応を図りました。断らない救急医療の徹底により、救急搬送件数は、目標の2倍近い件数となり、2,130件となりました。 また、愛知県に対して救急病床の増床申請を行い、当院の救急病床が5床となったことにより、さらに救急患者の受け入れに対して強固な体制を確保いたしました。 引き続き、近隣の消防署等との連携強化を図り、救急告示病院としての役割に努めて参ります。	○	令和3年度は、救急患者数、救急搬送数ともに計画を大きく上回る実績となりました。総合診療科を中心に、幅広い疾患への対応と断らない救急医療を実践した結果であり、海部東部地域の救急医療への貢献度は高いと評価する。引き続き、更なる救急医療の提供に取り組むことを期待する。																																																																																															
	目標値																																																																																																																	
救急患者数	3,000人																																																																																																																	
救急搬送数	1,200件																																																																																																																	
	実績値																																																																																																																	
救急患者数	3,832人																																																																																																																	
救急搬送数	2,130件																																																																																																																	
②小児医療	令和2年度は、令和元年度と同様に総合診療医と大学医局からの非常勤医師と連携した診療体制とし、小児救急ならびに一般小児科の外来診療の対応をいたしました。しかしながら、診療体制等の変更が無いにも関わらず、外来患者数が減少し、前年対比30.2%（R1年度1日平均18.4人/日、R2年度1日平均3.6人/日（R2.4～R3.2実績））となりました。要因として、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、外出抑制、感染症対策の強化・普及等により、風邪、発熱、下痢、嘔吐などの一般的な小児科疾患の罹患率の低下等により患者数が減少したものと考えます。 令和3年度も引き続き、大学医局の協力を得ながら一次救急の役割を果たし、入院治療など必要な場合は近隣の医療機関と連携してまいります。 <table><tr><td></td><td>目標値</td></tr><tr><td>小児外来患者数</td><td>687人</td></tr><tr><td>小児入院患者数</td><td>0人</td></tr></table>		目標値	小児外来患者数	687人	小児入院患者数	0人	・患者数	令和3年度は、令和2年度と同様に総合診療医と大学医局からの非常勤医師と連携した診療体制とし、小児救急ならびに一般小児科の外来診療の対応をいたしました。しかしながら、外来患者数の減少は前年度から引き続いており、令和3年度1日平均患者数4.0人（令和2年度3.6人）となりました。要因としては、コロナによる外出抑制、感染症対策の強化・普及等による、風邪、発熱、下痢、嘔吐などの一般的な小児科疾患の罹患率の低下等が考えられます。 <table><tr><td></td><td>実績値</td></tr><tr><td>小児外来患者数</td><td>966人</td></tr><tr><td>小児入院患者数</td><td>0人</td></tr></table>		実績値	小児外来患者数	966人	小児入院患者数	0人	○	総合診療医の中には小児科の専門医を取得している医師もあり、午前中は非常勤の小児科専門医により、午後は常勤の小児科専門医により診療を行う体制が取られています。昨年度よりもコロナの影響は緩和され、患者数は増加しました。 引き続き、小児医療の充実を図ります。	△	令和3年度の外来患者数実績は計画を上回ったものの、コロナによる外出抑制、感染症対策の強化があり外来患者数が増えない現状であるが、政策的医療のひとつに位置づけた小児医療の更なる充実を期待する。																																																																																															
	目標値																																																																																																																	
小児外来患者数	687人																																																																																																																	
小児入院患者数	0人																																																																																																																	
	実績値																																																																																																																	
小児外来患者数	966人																																																																																																																	
小児入院患者数	0人																																																																																																																	
③リハビリテーション医療	令和2年度より休棟していた病棟を回復期リハビリテーション病棟として稼働させ、令和2年4月稼働当初は、1日平均患者数15.5人でしたが、近隣の急性期病院との連携を図り、令和3年2月時点では、1日平均患者数39.7人となりました。 ただし、患者数増加ならびに感染対策等も含め、リハビリテーションをスペースが少ないことから、1患者あたりの提供単位数は、約5.7単位（R2.4月～12月）から直近の1月、2月の実績では、約4.1単位と低下しております。 令和3年度におきましては、療法士4～5名の増員を図り、また、あま市のご支援によりリハビリテーション室の拡張工事を予定していることから、令和3年度はさらに手厚いリハビリテーション医療が提供できる体制整備を図ります。 これにより、回復期リハビリテーション病棟を中心に1患者あたりの提供単位数を増加し、年間約19,000～20,000単位の増加を目標としてまいります。 ただし、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、外来リハビリテーションについては令和2年4月中旬より中止せざるを得ない状況にあり、令和3年度も見通しが立たない状況です。つきましては、外来リハビリテーションにおきましては、新型コロナウイルス感染症の状況も踏まえて実施していく予定です。 令和3年度は、あま市のご支援により、リハビリテーション室の拡張工事を予定しておりますが、より安全に、より利用者が快適に療養生活を過ごせるよう引き続き環境整備についてあま市のご支援をいただければと考えております。 <table><tr><td></td><td></td><td>一般病棟</td><td>地域包括ケア病棟</td><td>回復期リハ病棟</td><td>合計</td></tr><tr><td rowspan="4">入院</td><td>運動器リハビリ</td><td>11,200単位</td><td>7,000単位</td><td>49,000単位</td><td>67,200単位</td></tr><tr><td>脳血管疾患リハビリ</td><td>6,500単位</td><td>4,500単位</td><td>32,000単位</td><td>43,000単位</td></tr><tr><td>廃用症候群リハビリ</td><td>4,500単位</td><td>3,800単位</td><td>—</td><td>8,300単位</td></tr><tr><td>呼吸器リハビリ</td><td>7,800単位</td><td>3,600単位</td><td>—</td><td>11,400単位</td></tr><tr><td></td><td>計</td><td>30,000単位</td><td>18,900単位</td><td>81,000単位</td><td>129,900単位</td></tr><tr><td rowspan="4">外来</td><td>運動器リハビリ</td><td></td><td></td><td></td><td>—</td></tr><tr><td>脳血管疾患リハビリ</td><td></td><td></td><td></td><td>—</td></tr><tr><td>廃用症候群リハビリ</td><td></td><td></td><td></td><td>—</td></tr><tr><td>摂食機能療法</td><td></td><td></td><td></td><td>6,000回</td></tr></table>			一般病棟	地域包括ケア病棟	回復期リハ病棟	合計	入院	運動器リハビリ	11,200単位	7,000単位	49,000単位	67,200単位	脳血管疾患リハビリ	6,500単位	4,500単位	32,000単位	43,000単位	廃用症候群リハビリ	4,500単位	3,800単位	—	8,300単位	呼吸器リハビリ	7,800単位	3,600単位	—	11,400単位		計	30,000単位	18,900単位	81,000単位	129,900単位	外来	運動器リハビリ				—	脳血管疾患リハビリ				—	廃用症候群リハビリ				—	摂食機能療法				6,000回	・リハビリテーション実施件数	令和2年度に開棟した回復期リハビリテーション病棟は、令和3年度は1日平均患者数38.5人と、令和2年度27.7人から大幅に増加いたしました。 令和2年度には課題であったリハビリスペースに関しても、あま市事業により、リハビリテーション室脇の相談室を改修し、リハビリスペースとして使用できるようにしていただきました。そのため、1患者あたりの提供単位数は、令和3年1～3月の平均約4単位から、令和3年度は平均5.0単位と回復しました。 また、コロナの感染防止のため、外来リハビリテーションについては、中止せざるを得ない状況が続いており、十分な医療提供を実施することができていません。 <table><tr><td></td><td>一般病棟</td><td>地域包括ケア病棟</td><td>回復期リハ病棟</td><td>合計</td></tr><tr><td rowspan="4">入院</td><td>運動器リハビリ</td><td>11,391単位</td><td>11,861単位</td><td>44,513単位</td><td>67,765単位</td></tr><tr><td>脳血管疾患リハビリ</td><td>5,667単位</td><td>4,157単位</td><td>27,344単位</td><td>37,168単位</td></tr><tr><td>廃用症候群リハビリ</td><td>2,038単位</td><td>3,126単位</td><td>5単位</td><td>5,169単位</td></tr><tr><td>呼吸器リハビリ</td><td>7,242単位</td><td>9,886単位</td><td>—</td><td>17,128単位</td></tr><tr><td></td><td>計</td><td>26,338単位</td><td>29,030単位</td><td>71,862単位</td><td>127,230単位</td></tr><tr><td rowspan="4">外来</td><td>運動器リハビリ</td><td></td><td></td><td></td><td>—</td></tr><tr><td>脳血管疾患リハビリ</td><td></td><td></td><td></td><td>—</td></tr><tr><td>廃用症候群リハビリ</td><td></td><td></td><td></td><td>—</td></tr><tr><td>摂食機能療法</td><td></td><td></td><td></td><td>5,288回</td></tr></table>		一般病棟	地域包括ケア病棟	回復期リハ病棟	合計	入院	運動器リハビリ	11,391単位	11,861単位	44,513単位	67,765単位	脳血管疾患リハビリ	5,667単位	4,157単位	27,344単位	37,168単位	廃用症候群リハビリ	2,038単位	3,126単位	5単位	5,169単位	呼吸器リハビリ	7,242単位	9,886単位	—	17,128単位		計	26,338単位	29,030単位	71,862単位	127,230単位	外来	運動器リハビリ				—	脳血管疾患リハビリ				—	廃用症候群リハビリ				—	摂食機能療法				5,288回	△	回復期リハビリテーション病棟の稼働率は前年度より躍進し、85%を超えました。 また、患者数の増加により手狭になったリハビリテーション室を改修し、リハビリスペースも広く確保できたため、提供総単位数は前年度の103,279単位から127,230単位に増加しました。しかし、1患者当たりの提供単位数は目標の6単位には達していないため、今後も引き続きスタッフの増員に努めます。	○	令和4年2月からリハビリスペースを拡張し、スペースを確保した上での利用を開始することができたが、コロナの影響で外来リハビリが中止となったこともあり、リハビリ単位数は計画を下回った。しかしながら、回復期リハビリテーション病棟は稼働率が高く、手術からリハビリテーションまでを実施しており、地域の回復期医療を担う役割を果たしていると評価する。
		一般病棟	地域包括ケア病棟	回復期リハ病棟	合計																																																																																																													
入院	運動器リハビリ	11,200単位	7,000単位	49,000単位	67,200単位																																																																																																													
	脳血管疾患リハビリ	6,500単位	4,500単位	32,000単位	43,000単位																																																																																																													
	廃用症候群リハビリ	4,500単位	3,800単位	—	8,300単位																																																																																																													
	呼吸器リハビリ	7,800単位	3,600単位	—	11,400単位																																																																																																													
	計	30,000単位	18,900単位	81,000単位	129,900単位																																																																																																													
外来	運動器リハビリ				—																																																																																																													
	脳血管疾患リハビリ				—																																																																																																													
	廃用症候群リハビリ				—																																																																																																													
	摂食機能療法				6,000回																																																																																																													
	一般病棟	地域包括ケア病棟	回復期リハ病棟	合計																																																																																																														
入院	運動器リハビリ	11,391単位	11,861単位	44,513単位	67,765単位																																																																																																													
	脳血管疾患リハビリ	5,667単位	4,157単位	27,344単位	37,168単位																																																																																																													
	廃用症候群リハビリ	2,038単位	3,126単位	5単位	5,169単位																																																																																																													
	呼吸器リハビリ	7,242単位	9,886単位	—	17,128単位																																																																																																													
	計	26,338単位	29,030単位	71,862単位	127,230単位																																																																																																													
外来	運動器リハビリ				—																																																																																																													
	脳血管疾患リハビリ				—																																																																																																													
	廃用症候群リハビリ				—																																																																																																													
	摂食機能療法				5,288回																																																																																																													

(2) 政策的医療に関する評価チェックシート

評価の定義
○ 期待どおり又は期待以上
△ 事業の実施に問題はないが一部に改善の余地有り
× 事業の実施に支障有り。或いは法令違反有り。

評価項目	事業計画書の内容	評価対象事項	令和３年度の実績	自己評価	自己評価分析	市評価	評価所見																														
④保健衛生事業	令和２年度は、新型コロナウイルス感染症拡大により事業所検診等をはじめとした健診事業等を制限しつつも可能な限り、実施いたしました。令和３年度は、新型コロナウイルス感染症によるワクチン接種等の事業についてあま市と連携し、地域の感染対策の一端を担ってまいります。新型コロナウイルス感染症の状況にもよりますが、引き続き、子宮がん検診、乳がん検診、事業所検診等をはじめとし、個人健診や予防接種など幅広い保健衛生事業を実施いたします。また、ヘルスプロモーション事業として、糖尿病の健康教室などの公開健康講座等を開催し、市民の健康づくりに寄与します。なお、令和２年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、公開講座等を実施することが難しいなか、地域のケーブルテレビの協力やオンラインシステム（ZOOM）を活用し、感染管理等の普及に努めました。令和３年度もオンラインシステム等も活用しながら保健衛生に関わるイベント等を開催し、地域住民だけでなく、地域の施設、事業所の施設関係者等々への啓蒙活動や市と共同した保健衛生活動を実施するなど、さらなる健康増進・維持、健康な地域づくりに取り組みます。 <table><tr><th></th><th>目標値</th><th>備考</th></tr><tr><td>子宮がん・乳がん検診</td><td>200人</td><td></td></tr><tr><td>企業健診等</td><td>1,800人</td><td></td></tr><tr><td>予防接種</td><td>800人</td><td>肺炎球菌、インフルエンザ等</td></tr><tr><td>新型コロナウイルスワクチン接種</td><td>4,400人</td><td>住民接種2,500人、医療従事者接種1,900人</td></tr></table>		目標値	備考	子宮がん・乳がん検診	200人		企業健診等	1,800人		予防接種	800人	肺炎球菌、インフルエンザ等	新型コロナウイルスワクチン接種	4,400人	住民接種2,500人、医療従事者接種1,900人	・子宮がん、乳がん検診の実施件数 ・企業健診等の実施件数 ・予防接種の実施状況	令和３年度も、コロナの影響により事業所健診等をはじめとした健診事業においても一部制限せざるを得ない状況となりましたが、従来の１階健診センターではなく、２階外来スペースを使用するなど、可能な限り対応いたしました。また、市民の健康増進等を目的にオンライン（ZOOM）による感染管理講座、糖尿病予防に関する講座を実施するほか、あま市が計画したフレイル予防活動教室「笑って元気スクール」に、理学療法士等を派遣し、地域の方々に対して栄養・運動・社会について講演するなど市の事業においてもサポートいたしました。 <table><tr><th></th><th>目標値</th><th>備考</th></tr><tr><td>子宮がん・乳がん検診</td><td>666人</td><td></td></tr><tr><td>企業健診等</td><td>1,849人</td><td></td></tr><tr><td>予防接種</td><td>364人</td><td>肺炎球菌、インフルエンザ等</td></tr><tr><td>新型コロナウイルスワクチン接種</td><td>8,808人</td><td></td></tr></table>		目標値	備考	子宮がん・乳がん検診	666人		企業健診等	1,849人		予防接種	364人	肺炎球菌、インフルエンザ等	新型コロナウイルスワクチン接種	8,808人		○	コロナ禍の影響により、健診業務については、一部制限するなど、規模を縮小した形での実施が続いておりますが、ワクチン接種の実施等、コロナ禍において貢献できる部分での活動に力を注ぎました。また、コロナ禍においてもフレイル予防活動教室への理学療法士派遣や、オンラインを活用した感染管理講座や糖尿病予防に関する講座の実施等、啓発活動についても積極的に行いました。	○	コロナ禍で健診業務は縮小を余儀なくされたが、がん検診や企業健診等の実施件数は計画を上回った。また、あま市が行った新型コロナウイルスワクチン接種の集団接種会場の一つとして地域の感染予防のためにワクチン接種事業を実施できたことは評価する。
	目標値	備考																																			
子宮がん・乳がん検診	200人																																				
企業健診等	1,800人																																				
予防接種	800人	肺炎球菌、インフルエンザ等																																			
新型コロナウイルスワクチン接種	4,400人	住民接種2,500人、医療従事者接種1,900人																																			
	目標値	備考																																			
子宮がん・乳がん検診	666人																																				
企業健診等	1,849人																																				
予防接種	364人	肺炎球菌、インフルエンザ等																																			
新型コロナウイルスワクチン接種	8,808人																																				
⑤災害時医療	あま市地域防災計画に基づき、地域の消防署、行政機関等の関連機関との連携を強化し、地域で災害が発生した際には、行政との連携のもと災害時救急患者の受入を積極的に対応できるよう必要な研修、訓練等を実施いたします。なお、地域の消防署と共同でトリアージ訓練等の計画、実施を検討してまいります。また、新型コロナウイルス感染症におきましては、あま市より災害時医療に該当しないとの判断をいただいておりますが、治療方法が確立していない新型コロナウイルスでもあることから、災害と同様と考え、院内の感染対策を十分に図りながら、地域と連携、協力し、医療機能を維持・確保に努めて参ります。また、災害発生時に必要な救急用医薬品、医療材料、防災備品等を整備し、災害時における医療要員の参集体制など、新型コロナウイルス感染症等を含めながらBCPマニュアルの改訂を行います。 <table><tr><th></th><th>頻度</th><th>内容</th></tr><tr><td>災害対策研修</td><td>2回/年</td><td>地域の総合防災訓練、災害時における医療提供体制に関する研修</td></tr><tr><td>トリアージ訓練</td><td>適宜</td><td>傷病者の受入れを速やかに行う訓練</td></tr><tr><td>その他訓練・研修</td><td>適宜</td><td>その他災害時における訓練、研修等</td></tr></table>		頻度	内容	災害対策研修	2回/年	地域の総合防災訓練、災害時における医療提供体制に関する研修	トリアージ訓練	適宜	傷病者の受入れを速やかに行う訓練	その他訓練・研修	適宜	その他災害時における訓練、研修等	・研修等の実施状況 ・訓練の実施状況	令和３年に国内で被害を伴った地震は７回ありました。また水害についても７～８月にかけて集中豪雨が発生し、土石流や河川氾濫による被害が九州から関東にわたって発生しました。令和３年度は引き続きコロナの影響があったため、広域災害訓練は見送られましたが、水害に対する避難確保計画を策定しました。その他、防災備蓄庫を設置し、少しずつではありますが、いざというときに備えた整備を進めています。 <table><tr><th></th><th>実施日</th><th>内容</th></tr><tr><td>防災避難訓練</td><td>9月12月</td><td>院内における日中及び夜間を想定した避難訓練を実施。併せて消火器噴霧訓練も実施。</td></tr><tr><td>海部地方総合防災訓練 あま市総合防災訓練</td><td>－</td><td>コロナ対策のため中止</td></tr></table>		実施日	内容	防災避難訓練	9月12月	院内における日中及び夜間を想定した避難訓練を実施。併せて消火器噴霧訓練も実施。	海部地方総合防災訓練 あま市総合防災訓練	－	コロナ対策のため中止	○	法令で定められている訓練を実施し、災害時等に対応できる対策を図りましたが、地域の防災訓練は昨年度に引き続きコロナの影響により開催が見送りとなりました。そのような中でも、水害に対する避難確保計画の策定や、防災備蓄庫の設置等、有事に備えた整備を可能な限り進めてまいりました。	○	災害時医療として計画した院内の防災避難訓練では、しっかりと災害時を想定して行なうことができた。水害に対する避難確保計画の策定など、いざという時の有事への備えを行えており評価する。									
	頻度	内容																																			
災害対策研修	2回/年	地域の総合防災訓練、災害時における医療提供体制に関する研修																																			
トリアージ訓練	適宜	傷病者の受入れを速やかに行う訓練																																			
その他訓練・研修	適宜	その他災害時における訓練、研修等																																			
	実施日	内容																																			
防災避難訓練	9月12月	院内における日中及び夜間を想定した避難訓練を実施。併せて消火器噴霧訓練も実施。																																			
海部地方総合防災訓練 あま市総合防災訓練	－	コロナ対策のため中止																																			